

美大生だからできる！ 創造的キャリアの育み方

奥山 睦さん

2009.7.6 進路就職講座講演記録

ムサビ卒業後、地域産業支援やキャリア・カウンセリングといった幅広い領域で「仕事とキャリア」に関わられてきた奥山さんに、美大生ならではの創造的なキャリアデザインについてお話いただきました。

1 創造的なキャリアデザインに向けて

●ムサビ生から会社経営者へ

講師を務めさせていただきます、奥山睦と申します。もう30年近く前になりますが、ムサビの実技専修科を卒業しました。アーティストとして活躍されている奈良美智さんがちょうど同級生になりますので、そういった時代の卒業生です。ムサビ卒業後はいくつかの職を経て、現在は会社経営と大学教員をしています。美大生のキャリアデザインは総合大学とまったく違ってきますから、これまでの私自身の体験が皆さんのご参考になればということでお話をさせていただきます。

さて具体的にどのような仕事をしているかといいますと、とにかく沢山のモノをつくっています。会社が編集プロダクションですので、デザインや装幀も自作自演で全部やってしまう感じですね。今は製造業にとっても関心がありまして、職人さんたちの実感を追いつながら様々な書籍をつくっています。職人気質や質へのこだわりといったように、製造業のものづくりって美大生の感性とすごく合っている気がします。(著書p14)

また最近では製造業の技術とアートを融合させたプロジェクトも行っています。2005年8月の「工業部品とインテリア展」では、商店街の空き店舗を活用してアーティストが工業部品をアレンジした作品を集めた展示を行いました。また会社の所在地である東京都大田区の地域ブランド推進事業にも関わって、2008年7月から経済産業省の地域活動支援事業として立ち上げた「Metal Otaku」*1というプロジェクトでは、機械金属加工業を中心とした巨大な産業集積の街である大田区の面白さを伝えるために、セカンドライフ*2上に巨大ロボットの仮想工場を建てたりするなど、メディア上での様々な試みを行いました。「メタル大田区」と「メタルおたく」のダブル・ミーニングなのですが、今後はパートナーである製造業の人たちに「Metal Otaku」のオリジナル製品を開発してもらい、ネットショップで販売する実験をしていこうかと考えています。このように街づくりやアートに関するプロデュースと執筆を中心に活動を行っています。

・現在の私は？&

- (1)私の悩みは何か
- (2)私の得意は何か
- (3)私は何を目標にしたいのか
- (4)私はそれを達成したいのか
- (5)私はそれをいつまでにしたいのか
- (6)私はそれをするために今、何を準備したらいいのか
- (7)私がそれをするによって得るものは何か
- (8)私がそれをするによって捨てるものは何か

・一年後の私は？！

- (1)私は何をしているか
- (2)私を取り巻く環境はどうなっているか
- (3)私の技術・技能はどうなっているか

【図1】



●私って何が叫んでいるの？

皆さんが美大に入る時、本当に作家になろうと思って入学してきたのでしょうか？ おそらく将来の道路ってそんなに簡単には決められないですよね。作家になろうとか、商業美術でいこうとか、もっと違う働き方をしてみようといったように、学生生活を通じて多くの選択肢や葛藤が生じてくるはず。何より私自身もそうでした。

そこで「私って何が叫んでいるの？」ということを考えてみる時、まず自分にマッチする言葉を3つ書いてみる方法があるのですが、例えば、「斬新」「達成感」「自由」という言葉を思いついたとすると、今度はこの3つの言葉を使って相手に伝わるように文章を綴って表現してみます。「よく人から発想が「斬新」だと言われ、作品をつくり上げた後の「達成感」がたまらない、「自由」な時間をつくって作品づくりを続けたい」といった感じですね。とても簡単な方法ですが、言葉で書いてみると意外に自分の内面的なものが見えてくると思います。

●期限を設定する

また「現在の私は？」や「一年後の私は？」【図1】といったことも一通り書き出してみることをお勧めします。意外に「(5)いつまで」を考えない人が多いのですが、キャリア形成をしていく上で、1年後、2年後、5年後といったように期限を設定する考え方はとても大切です。期限から逆算して、今は何を準備したらいいのかとか、捨てるべきものは何かといったことを考えてみるわけです。後ほど述べますが、当然ながら捨てるべきものもたくさん出てくると思います。

●作家志望からサラリーマンに

私の場合、まず悩んだのは本当に作家の適性があるのかということでした。職業として作家を選択する覚悟が出来ていなかったのです。ただ少しか時間的猶予が欲しかったため、卒業した後もゼミに週1回2年間ほど制作活動に専念していたのですが、なかなかビジョンが見えてきませんでした。この先、展覧会に出し続けたり会員に推荐されたりとか、そういったこ



奥山 睦 (おくやま むつみ)さんプロフィール

1958年生まれ。武蔵野美術大学卒業。1990年、有限会社オフィス・ウィルを設立(現・株式会社ウィル)。代表取締役。出版物やホームページの企画制作プロデュースに携わる。2000年、大田区の女性経営者共業種交流会「WIS」のメンバーの共同出資で有限会社イーテス(現・株式会社イーテス)を設立。6年間の代表取締役を経て現・取締役。東京都大田区の中小製造業、商店のIT化支援に携わる。2006年7月、合同会社キャリアサポートセンター設立。代表社員。キャリア・カウンセリング、講義、セミナー企画に携わる。著書に「メイド・イン・大田区」、「大田区スタイル」、「職人の作り方」、「在ミワークハンドブック」など他多数。

【注】



*1: Metal Otaku

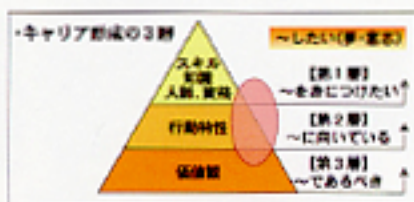
URL: <http://www.metal-otaku.net>

Second Life SIM: <http://slurl.com/secondlife/Binnecod/114/174/22>

*2: セカンドライフ / Second Life

リンデンラボ社が運営するオンライン上の3D仮想コミュニティ。アバターと呼ばれる分身を使って、仮想世界での生活を体験できる。また多くの企業が参入し、様々なビジネス展開も見せている。URL: <http://secondlife.com>

STEP1.現在地点は？



【図2】

STEP2.どこを目指すか？



【図3】

STEP3.計画から行動へ

- ① なぜ 課題に取り組み動機を明らかにする
- ② 何を 課題そのものの確認
- ③ いつ 課題を実現するための期限の設定
- ④ どこで 課題を遂行する場所
- ⑤ 誰と 行動のパートナー
- ⑥ どのように 課題の克服・達成のための手法

【図4】

とを続けるのに違和感を覚えたのです。もちろん現在も作家活動を続けながら素晴らしい人生を送っている同級生たちがいますが、私の場合は違ったということだと思います。

そこで、とりあえず辞めてみようと思い、父親が弁護士だったこともあって最初は法律事務所の事務員の仕事に就きました。書類を和文タイプで打って、裁判所に持って行ったり、印鑑証明を取ってくるといった事務の仕事をごさねしていくうちに、自分のできる事、できない事、好きな事、嫌いな事が徐々に分かってきたように思います。何年も我慢ばかりで来てしまったので経済的に自立したいと思い、次の仕事の可能性を探りはじめました。最初に入った編集プロダクションではデザイナーとして採用されたのですが、寝るから営業に行ってくださいとか、文章が書けるからコピーを書いてくださいといったように、本当に色んな仕事をさせてもらいました。その結果、3年ほどで書籍の企画、営業、編集、デザインまで一通りの仕事が一人でできるようになりました。ならば、また次に興味ある仕事に行ってみようといった感じで、私の場合は3回ほど転職をしています。編集プロダクション、販売促進のプロモーター、そして最後にサラリーマンとして働いたのはテレビ番組の制作会社でした。

●31歳で独立起業

サラリーマン時代の仕事自体は面白かったのですが、我慢をして体を壊してしまいました。

それがきっかけとなって、自分自身の働き方を見つめ直すようになり、31歳の時に会社をつくって独立しました。しかし、決して順風満帆にいったわけではありません。起業して3年目にバブルが崩壊し、広告業界は景気に合わせて一気に縮小してしまいました。その時、私は何をしたらいいかと、仕事が減った分だけとにかく時間があつたので、何とか1年間を乗り切れるお金を銀行から融資してもらいホームページの制作を勉強したのです。このように自分に投資してみるのも、一番良い時期を乗り越える方法の一つだと思います。日本は公共事業に対する投資は世界一なのですが、教育に対する投資はというと残念ながら先進国中で最低です。しかし本当は自己投資や教育投資といったキャリアのための投資は必要です。私は

一番ピンチの時に、次の新たなビジネスに投資することで生き残ってきました。皆さんもこれからの人生で何回かそういった経験をするかもしれません。時代の変化や技術革新に刻み合わせるために、いざという時には自分に投資してみることも大切です。そこから次の可能性を築いてみるのです。

それから好きなことを仕事にしたいと考えるのは当然なのですが、就職の表文間で立ち止まって「本当に自分の好きなことは他にないのか」と自分探しを始めてしまうと、なかなか次の一歩が踏み出せないのです。好きなことを仕事で探そうとすると、逆に自分の可能性を狭めてしまう場合もあります。むしろ、面白くさそうと思いつつも、いざ試してみると好きになる仕事もきっとあると思います。いまの時代は変化が激しいですから、いきなり10年後のビジョンを考えるのは難しいですね。例えば、入った会社で3年間はがんばってみて、一通りの仕事ができるようになった時にあらためて自分の好きなことや次のステップを考えてみるやり方でも良いのです。

2 キャリアは生涯をかけて育むもの

●ゆっくりと飛行しなければならぬ時もある

「キャリア」には狭い意味と広い意味の2つがあります。狭い意味の「キャリア」は〇〇会社の〇〇職といったように、職業、職階、職位、履歴、進路といった目に見えるかたちのキャリアですね。これに対して、広い意味の「キャリア」では個人の人生や生き方、またその表現方法の全般を指します。特に女性の場合は、出産、子育て、介護は避けて通れません。私は会社をつくった翌年に結婚、その翌年には出産という、とても忙しい時期を3年ほど過ごしましたが、広い意味での「キャリア」では、ソフトランディングというか、ゆっくりと着実に飛行しなければいけない時期があると思います。

最近では私も自分の生き方や働き方をちょっと見直してみたくて、50歳にして大学院生になりました。大学院では地域雇用政策の勉強をしています。雇用政策は現在の最重要課題だと思いますし、地域の中でどのように雇用を生み出していくかという問題にとて

関心があります。またアーティストという立場は社会的に押さえられる側になっていくことが多く、作品では表現できるけれども、社会の様々なプレゼンテーションの場面ではなかなか力を発揮できない。そういった自分の弱い立場を補完したい気持ちもあって、今は学生として一から勉強しているところです。社会の中でアーティストが共存共栄していくためにも、美大で培ってきた創造的な価値観を社会に還元する方法をずっと考えてきたのですが、正直まだまだ模索中ですね。

●土台にあるのは自分の価値観

それで「STEP1.現在地点は？」【図2】なのですが、土台にあるのは行動を促すための自分の価値観です。行動特性、すなわち自分は何に向いているのだという嗜好が上の層にあり、必要な技能、知識、資格がさらにその上にあります。この3層を土台から順実に形成していくことが夢や意志に繋がって、総じてキャリア形成になるのではないかと思います。

また人には向き不向きや性格特性がありますが、「STEP2.どこを目指すか？」【図3】では、例えば「ポジティブ・アンカー」は「キャリア形成の意志が強く、キャリア形成の環境が固定的」で「専門分野を深める仕事に向いている」タイプといった事を示しています。逆の「ポジティブ・フロー」だとベンチャー企業の起業家のように「変化を起こしチャンスを作る」タイプだということになります。

「STEP3.計画から行動へ」【図4】は、いわゆる「SWIH」の6つの項目を挙げながら、計画を具体的な行動へと移していく足がかりを示しています。例えば、「どこで」は仕事を遂行する場所ということになります。企業への就職や独立起業に加えて、現在だとPCを使って製作をされている方は在宅勤務も可能になったりと、働く場所の選択肢は広がっていますね。「誰と」を考えてみると、女性の場合は出産や育児など、もし何らかの理由で自分が物理的に仕事の時間が取れない時でも、パートナーがいればフォローしてくれるかも知れません。これはお金のリスクヘッジでもありますから、生活・ビジネス上の「誰と」というパートナー選びも重要ですね。「SWIH」とはよく言ったもので、仕事や就職活動にもこの考え方は当てはまります。



世界に冠たる製造業の町・大田区を紹介した著書。左から「メイド・イン・大田区」(神宮学術出版)、「大田区スタイル」(アスキー)、「職人の作り方」(マイコン新書)。



会場からの質問に熱く答える奥山さん



講演終了後に集まってきた学生たちと談笑

3 創造的キャリアを育むためのTIPS

●戦略とは深堀と焦点を絞ること

創造的キャリアには「戦略」が必要です。「戦略」とは、特定、限定化、捨てる、見切る、差別化、優位性、意思決定のルールを持つといったように「フォーカス&ディープ」、要するに深堀と焦点を絞ることなのです。特化するべき自分の能力、自分の強みや弱みを見つめるためには、捨てる、見切ったりすることが必要な場合があります。私の場合はムリビを卒業して2年で作家の道をスバッと見切りました。私の道はきつと別のところにあるんだらうなと思って捨てたわけですね。

●ライスワークとライフワーク

ただ、ここにも1つ考え方があって、仕事には「ライスワーク」と「ライフワーク」があると思うのです。「ライスワーク」はご飯を食べるための仕事です。それに対して「ライフワーク」は自分の好きな事を徹底して追求するための仕事になります。人はパンのみに生きてはいけませんが、生きていくためにはやはりパンが必要です。例えば、食べるための仕事を10時から5時までする代わりに、アフター5は作家活動に専念するといったように割り切ってみる。これも捨てる、見切ることのひとつですね。ただ、もちろん葛藤はあります。1日をスバッと線引きするのは決して簡単ではなくて、そういった葛藤の中で作家活動をやめちゃう人も多いです。同級生だった奈良美智さんも、成功までに実はものすごく苦労されていて、長い間、ドイツで下積み生活を送ったこともあり、40歳を過ぎても風呂なしのアパートに住んでいたんですよ。他の同級生たちが家や車、結婚して家庭や子どもを持っていたりする中、彼はそういった一切を捨てて作家活動に専念し続けていたんですね。好きだから、ひたすらに頑張る。そのくらいの気迫があるかってことですね。

それから「再チャレンジは何回でも出来るんだ」と思っておいて。一度失敗したら、そこで否定されてしまうのではなく、何度も挑戦できる自分であることも必要です。新卒での就職は、あくまで第1ステップに過ぎません。仕事を覚えてくると自分の生き方を考

えざるを得ないわけで、結婚される人もいでしょうし、家族を持つ人はその責任も考えなければなりません。人生の様々な時期において「ライスワーク」と「ライフワーク」のバランスをチェックをしてみて、もし無理をしているようであれば、その態度、改善していけば良いわけです。

●クリエイティブ・クラス

ここで「クリエイティブ・クラス」という研究について、少しだけご紹介したいと思います。「クリエイティブ・クラス」は2007年にアメリカの研究者、リチャード・フロリダさん^{*3}によって発表されました。

まず「クリエイティブ」な仕事とは「幅広く役に立ち、常に社会に転用できるような、新しいデザインや形式を生み出すこと」と定義されています。例えば、広く製造・販売・使用できるような製品設計、様々な応用が可能な戦略や原理の立案、繰り返し演奏される音楽の作曲といったように、多くの付加価値を社会に提供する仕事ですね。こういった「クリエイティブ」な仕事に携わる階層、すなわち「クリエイティブ・クラス」が注目されているということなのです。「クリエイティブ・クラス」の中核となるのは、技術者、科学者、建築家、思想家、大学教授、デザイナー、作家、映画製作者、アナリストといった職業の人たちです。ですから、私たち大生も「クリエイティブ・クラス」に含まれますよね。

この研究論文では、そのような「クリエイティブ・クラス」の集積と地域の競争力を結びつけた場合、地域に新たな雇用が生まれるのではないかと考えられています。地域の経済成長には3つの「T」、すなわち技術(Technology)、才能(Talent)、そして寛容性/多様性(Tolerance)が必要で、この3つの「T」が地域の中で集積したときに経済成長の大きな原動力となります。アーティストが地域や社会に積極的に参加することもその一例だと思います。私自身も社会の中で必要とされるアーティストのあり方だとか、アートを学んできたことによって何を社会還元できるかということやずっと考えて仕事をしてきました。商店街の空き店舗を使って展覧会してみたり、職人さんの本を書いたり、雇用政策を学んだりといったことは、全てこのような関心に関わっているのです。

そして何より「クリエイティブ・クラス」の重要性は、今までの「技術系/芸術系」や「文系/理系」といった縦割りの考え方に対して、クリエイティブな要素を持った人々に橋を架して繋いでいく点にあると思います。私も技術・工学系の世界に身を置いたりしてきましたが、そういった歩みよりがこれからを生きる皆さんには確実に必要になってくるはずです。地域や社会の中にどのようにアートを融合させていくかといったことも含めて、あらゆるものに橋を架して繋いでいく発想が、クリエイティブな仕事をしていく人々には求められていると思います。

●ライフキャリアを形づくる4つの「L」

最後になりますが、「キャリア」は一生を通じて考えていくものだと思います。キャリアを構成する人生の役割を「ライフロール」と呼びますが、それには仕事(Labor)、学習(Learning)、余暇(Leisure)、愛(Love)、この「L」から始まる4つの単語がパッチワークのように縫い合わされ、組み合わせられ、統合されて、初めて一つの意味ある全体になるということを、発達心理学者のL.サニー・ハンセンさん^{*4}は語っています。本当にその通りだと思います。仕事だけを切り取って考えるのではなくて、あくまで仕事は生活の全体の中でのワン・オブ・ゼムにしか過ぎません。全てが大切な要素であり、それらをパッチワークのように縫い合わせて1枚の織物にしていく。そういった「ライフキャリア」の発想が大切なのではないかと思っています。時間になりましたので、これでお話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

【注】

*3: リチャード・フロリダ/Richard L. Florida
アメリカ合衆国生まれの社会学者で、専門は都市社会学。新しい地域発展モデルとして「クリエイティブ・クラス」に着目し、その実証的研究と体系化を行っている。

*4: サニー・ハンセン/L. Sunny Hansen
情報化時代のキャリア、キャリアカウンセリングのあり方を説く、アメリカの著名なカウンセラー・理論家。1997年の統合的人生計画論(Integrative Life Planning)で、人生における4つの役割を織り物に例えた。